

町長の所信表明に対する総括質疑の概要

令和4年第4回二宮町議会定例会

日時 令和4年12月15日（木） 午前9時30分以降

No.	質問議員	質問の概要（本人の提出原稿）
1	野地 洋正 議員	3期目の町政を預かる村田町長の所信表明、2期8年を振り返り、残された宿題、そして新たな課題に取り組むべく「未来に向けた8つのまちづくり宣言と具体的施策」のなかから以下5点を伺う。 1、 下記のような選挙結果をどう捉え、今後の町政を進めていくか。 投票率は60.79%→56.94%→53.12%（-3.82%）と低下傾向 有効票12,561票のうち獲得率は47.9%（有権者数24,695人全体の24.4%） 役場新庁舎建設反対を訴えた両候補の得票数は合わせて6,541票 2、 「子どもがまんなか、未来を拓く教育のまち」 給食費無償化、オーガニック給食の実現を「段階的」に進めるとは 年間1億円の財源確保は 3、 「ひとりでも暮らせる、気かけあうまち」 高齢者等の移動支援（コミュニティバス、デマンド型バス、タクシー利用助成） 4、 「誰もが使える 人に優しいデジタル化を進めるまち」 町公式LINEによる双方向での情報発信とは 11/30 職員の懲戒免職処分もあったが、職員の意識向上へ向けた指示・命令は 5、 「災害に備える安心・安全なまち」 役場新庁舎建設への取り組みと葛川溢水対策は
2	一石 洋子 議員	村田町政の成果は「住民が主役のまちづくり」としてワークショップ等の町民の対話の場を活発に創りボトムアップが広がり強まったこと。時代の危機感に敏感かつ前向きに活動する町民と市民派の女性町長の存在の効果と堅実な実績を評価する。小中一貫教育研究推進、コミュニティ・スクールの推進、地域福祉の通いの場、東大果樹園跡地のシンボル事業、環境フォーラム「ぼくたちわたしたちの地球会議」など、多様に広がる町民の創意が循環するまちづくりが展開されつつある。 選挙期間の前日、二宮駅で17歳の高校生が轢死された。 若い命の尊厳が失われた事を二宮町の政治はかつてない覚悟で受け止めなければならない。 日本のこども・若者の自殺者の数は過去最高レベルを更新。先進国の中で突出している。さらにコロナ禍、精神を病む子どもが全国的に増え続け子どもの病棟は逼迫しているとの報道もあった。国内のすべての学校にカウンセラーは常駐せずSOSを気づかれない場合が多い。気づいても治癒されないまま学校側は対応策に追われ問題の核心にせまれない政策が続いており、若者たちを社会に送り出すまでの日本の未来づくりは抜本的な改革が求められている。

町長の所信表明に対し以下の論点で質問する。

①「子どもがまんなか、未来を切り開く教育の町」

子育ての町として名乗りを上げるためには何よりも公教育がいかに魅力を持てるかに尽きる。誰一人取り残さない教育について今の日本各地のチャレンジを本気で上書きするほどの覚悟が必要だ。

はっきりとした最上位の理念を言語化し、今ここにいる子どもたちへの体現施策を打ち出すべきである。そもそも伝統的に子どもを応援する情熱のある町でコミュニティ・スクールも目に見えて展開しつつある。

この秋に新たな保護者団体が開催した、日本のフロンランナーとして注目される複数の学校を取材した映画「夢見る小学校」上映会は2日間で1000人弱の観客を集めた。まさに先に開催された二宮町主宰の講演会で言及されたユネスコの教育理念「秘められた宝」を体現する子ども達の学び場を共有した。このような機運が高まる中、校内フリースペースを誰一人取り残さない教育の対応策としていかに進めるのか問う。

②「子どもから大人までやりたいことができる町」

東大果樹園跡地のシンボル事業で浮かび上がる二宮型のウエルビーイングは大変貴重だ。来日した欧米の知識人が「日本は子どもの天国」と言われたという失われた日本の風土、自然な循環、人間力の回復を予感させる。

村田町政が粘り強く尽力した庁舎整備に係るラディアン周辺のエリアデザインも子ども、若者に注力した生活の質、福祉の向上のビジョンが必要だ。1期目に視察した武蔵野プレイスはまさに自治体が若者の居場所を創るという提案がもとに建設されたものであった。子ども若者に注力したことですべての世代のリビングとして結実したデザインが実現したことに注目すべきだ。庁舎、ラディアンで働く職員、また集う若者、子ども、保護者、高齢者、そして多世代の人々の生活の質、仕事の質、生涯教育の質をこの新庁舎を含めたラディアン周辺の「場」で如何に進化を図るのか問う。

また今回の選挙の投票率は6割をきり、全国的にはもっと低い状況で日本全体を覆う不安と当事者意識の欠如は深刻な状況である。一縷の希望である生活の現場でのボトムアップの町民の潜在力が未来を変える大きな要素になるはずと考える。公がいかに柔軟な協働をイメージできるかがカギだ。

町民活動推進補助金の改良と協働のまちづくりとしての町民の計画策定への参画推進を如何に進めるのか問う。

③「海あり山あり緑あり、魅力と活力ある町」

町が計画する気候非常事態宣言はこの町内に盛り上がる自然とともに生きるライフスタイルのプラスのエネルギーや尽力する住民の危機感、当事者意識、使命感を、特に子ども達との実践と対話、多様な学びを得ながら浮かび上がる文言で創りたいと思う。

発出までのプロセスと、その効果、発出後の体現策を問う。

3	渡辺 訓任 議員	令和4年第4回定例議会で示される町長の3期目にあたっての所信と諸施策の方向について、以下のように所見を問う。 ① 8つの宣言の最初には、緊急課題である「コロナ禍と物価高騰対策」をあげ、次に「こどもがまんなか、未来を拓く教育のまち」をあげている。子育て支援と教育の施策をまちづくりの一番、「まんなか」に据えて取り組むという姿勢か。「未来を拓く教育のまち」とは、どのようなところをめざすのか。給食費無償化は画期的な取り組みでこれを待ち望む声は多かったが、「段階的」とはどのような段階を考えているのか、さらに、幼稚園・保育園の給食費も含めていくのか。 ② 小中一貫教育校の設置については、多くの町民の理解や共感は得られていないと考える。来年度から「施設分離型」での実施を急ぐのはなぜか。 ③ 「ひとりでも暮らせる、気かけあうまち」は、「一人でも安心して暮らせる」高齢者福祉の実現をめざすものとして、移動支援と通いの場については触れられていると受け止める。文字通りの「一人暮らしの支援」については、関心・心配の大きい部分であるが、どのように充実するのか。 ④ 役場新庁舎整備については「災害に備える安心・安全なまち」に位置付けられているが、町民の期待はアクセスのしやすさにつながる立地の改善と、たこ足ではなく機能の集中にもあると受け止めている。一方で、「町はカネがないからダメだ」という町財政に対する心配の声が多いが、この点をどのように受け止めているか。 ⑤ 環境保全と脱炭素社会実現に関して、「気候非常事態宣言」を発表しているが、これに基づきどのような施策をすすめるのか。 以上
---	-------------	---

備考：2番目の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。
 本人の通告書の原稿を転記したものです。